広報こすど
発行所 小須戸町公民館
新潟県中蒲原郡小須戸町
印刷発行兼編集人 矢部藤三郎

白魔に自衛隊も出動

本町はまだ良い方

一昨年の大雪に続いてさる一月十九日より降り続いた雪は、二十四日には完全に交通をマヒさせるに至った。

そこで町当局では町民の皆さんの協力を得て、除雪作業を始めて二月末現在でも、まだ除雪作業を行っている部落もあるということ。

そこで町議会は二月八日に臨時町会を開き、雪害対策費、自衛隊の出動等を決めた。

今回の雪害対策費については、総額一六五万円也、また二月末現在の除雪作業出動のべ人数は約四千五百名となり、除雪用大型トラックも二百二十台、小型トラック百九十台という数にのぼっている。

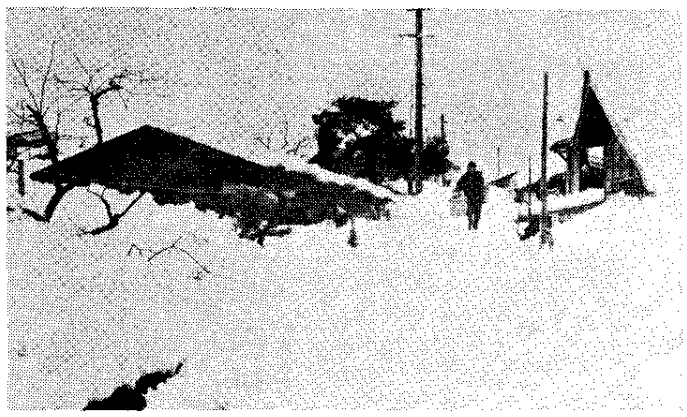
自衛隊も二月十日には当町に来て各主要道路の除雪に協力してくれた。

また雪どけと共に農作物の被害も多額なものとなろうが、現在見込まれている農産物関係の被害総額は一、八〇〇万円とされている。

今後も雪がなくなるにつれて、雪の被害もでてくるのであろう。

被害が大きいといえばもう一つ、みのがせない商工会関係の経費でしょう。特に今回のように長期間にわたり交通機関がストップしては入荷、出荷もできず、材料不足で作業も一部だけということもでていた。

商業関係の被害は、売上減、集金減、店舗被損等総額五、一〇〇万円の見込み。工業関係については滞貨、受註減、集金減、原材料不足などによる被害総額九、三七〇万円という額にのぼっている。



雪下しというよりは、雪つみだった。　下稲荷町地内

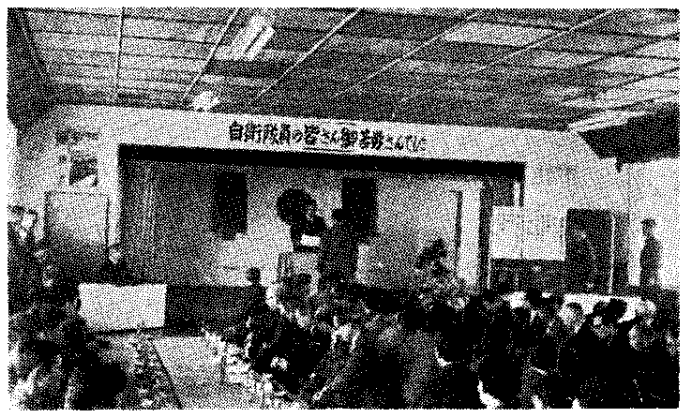
自衛隊に感謝の会

今までになかった大雪に見舞われた当町は、二月十日より六日間、自衛隊員の必死な救助作業にさしもの雪も見る間に除かれ、主要道路が開通されて町民もほっとした。

町当局ではその間、町部婦人会の協力で昼食のあたたかいお汁など差上げた。また町婦人会では菓子や果物を持って慰問し青年団、議会等も慰問して夜長を楽しんでいた。

作業も一段落ついた十六日、小須戸小学校音楽室で町当局は有力団体多数の協力を得て、自衛隊慰労の宴を開き感謝状を差し上げたり、いろいろな余興のレクリエーションで感謝の意を表した。

自衛隊でも「こんなにていねいにしていただいて、お礼の言葉もない。これほど喜んでくださるものなら、どんな仕事でもやりとげたいと思う」と、町当局の感謝の意に答えた。



自衛隊のみなさんありがとう。

眠っている防犯組合

山吹町 防犯組合長　金沢松太郎

ま新しい看板が来る年来る年も、から廻りしてなす仕事もなく次から次へと十余年、気付け薬の「防犯だより」も常会経由で、折角の防犯事務所を素通りして各地の人の目をうるおしてくれない。

いったい何事でも十年余もの才月を経た事業は軌道に乗るものだが、この防犯活動には、どこにその「あい路」があるのか一度良く考えてみるべきである。

この活動は人のためではなく、自分個人個人の自衛のための活動ではなかろうか。

ま新しい看板が来る年町には連合体の機構も整備されてあるにもかかわらず一向に連絡、召集、協議もなく縦横の連絡もなく、年末年始等の整備体制は手うすな警察だけにまかせっぱなし。この防犯組合はあるのかないのかある、ま新しい看板だけが、といっても過言ではない。

昔のことわざに「災害はイヤ災難は忘れた頃に」ということがある。

こんな平和な明るい町ですから事もないだろうが、前述の「忘れた頃に」の為に十分自衛の体制と心がまえが必要ではなかろうか。

四・五年前に一度商工会のきも入りで「防犯活動の進め方」等を公民館に開催し、警察当局の来臨を賜わって協議したものその後、素人の係員だけではどうにもならないので、ぜひとも関係係官の御指導を賜わり、既っておるものの目を覚ましし、警察と防犯組合とが表裏一体の活動を開始して、もっとよりよい小須戸町社会の育成を願う次第です。

螢雪の功なって

小須戸分校で卒業式

さる二月二十七日、新津高校小須戸分校では、本校で昭和三十七年度の卒業式を行なった。

今年の小須戸分校卒業生は二十六名、男子十七名、女子九名で人数こそ三十名たらずではあるが四年間、それも夜雨風にまけず通学、中でも四カ年間皆勤で通した女子生徒もあり、この辛棒強い精神は、今後の生活に力強くのことだろう。

また分校もここ二・三年理科実験教具も揃えられ実社会に役立つ学校にと関係者、卒業生ともに考えて少しでも多くの若人より入学してもらうことを望んでいる。

（写真は新井田さん(右)と栗賀さん）

成績優等賞

○新潟県定時制通信教育振興会賞　新井田久子

○新潟県下越働学青年連盟表彰　井上桂子

○四カ年皆勤賞　栗賀キミ子

○四カ年精勤賞　吉村愛子　斎藤恵子　井上桂子　新井田久子

テスト　4月4日　午前8時より
メ切　4月3日　12時まで
申込場所　小須戸分校（小須戸中学校内）

新津高校小須戸分校生徒募集

科目　国語・数学・社会・理科の4科目
持ち物　筆記用具及びスリッパ・中食

なぎさ　雪のあと

「のどもとすぎれば熱さ忘れる」といわれていますが、今年の雪くらいになるとなかなか忘れられない。屋根の雪下しが雪上げになる処も出て、除いた雪の処理にもたいへん。部屋は暗くなり小路では出入口までふさがってしまって、二階が臨時の入り口になるありさま、道路の共同除雪に何日もかかり出される。文化日本どこ吹く風…。すっかり昔にかえってしまい人手不足から、なれぬシャベルをにぎり、手には豆を作ったり、腰のちょうつがいがおかしくなって、サロンパスをはった腰をなでたりで身心共に疲れっぱなし、誰に文句をつけようもないとあっては浮かばれない。

それでも過ぎ去った今自然の歩みは刻一刻と春を告げて、大通りにほこりが舞い庭の残雪も多いといえ、うすよごれた色にそめながら窓辺に黒土を見せ始めた。

きびしい試練に耐えた木々の芽も、いつしかふくらんで来ている。

子供達にとってはよい冬であったことだろう。のどもとを過ぎないうちに雪害対策も恒久的な処置を考えたいもの。老人の方々から「おらの子供の頃はのう……」と言われない為にも自然の強烈なパンチにもガッチリ受けて立つ、たくましい底力がほしいもの。

早く請求を

引揚者の皆さん

引揚者給付金支給法の一部が改正され、次の事項に該当する方にも給付金が支給されることになりましたので、該当すると思われる方は五月十六日迄に請求下さるようお知らせします。

◉改正点

一、終戦前六カ月未満の期間内に外地に於て出生し、引き続き外地に居住していて終戦後引き揚げた者。

二、終戦前の外地の居住期間が六カ月未満の者で、日本国政府の命令又は要請により外地に生活の本拠を有するに至ったものと厚生大臣が認める者。

三、引揚後昭和三十二年三月三十一日以前に二十才以上二十五才未満で死亡した者の遺族。

○不明の点については県世話課又は役場住民課係に問い合せて下さい

小須戸風土記

明治・大正

越後侠客物語　その七

柏大治

小須戸の市日は昔から三・八の日をもって定められている。その翌々日の五・十の日が市休みとして近郷に市がけする一般商人の、いわば公休日。この日になると森田喜三次は意気ようようとして柄目木の結城清助を訪うて剣道を教わった。

維新の剣聖、千葉周作先生の門下だけあって、さすがに結城清助の腕は冴え稽古も荒く、約束通り剣道具を身につけないから真剣勝負の形だ。下手に打たれれば不具はまぬがれない。喜三次も帰り土産として、始めは打ち傷の一つや二つは必ず付けて帰ったが、これにこりずますます熱心に稽古に通った。

喜三次の剣道も結城清助に輪を掛けて乱暴だが剣道は至って不器用で、大上段に太刀をふりかぶって、少しも動くことをしない。全身すきだらけの上に五尺七・八寸もある彼が立った姿はこっけいで、決して剣士などになれそうな格恰ではないから、結城清助も心中で「これはものにならん」と馬鹿にして軽くあしらったが、いったん結城清助の太刀が喜三次の身体のどこかを打ったとおもうとたん、大上段にふりかぶった太刀は満身の力をこめ、うなりを生じて飛んで来る。いわば「皮を切らして肉を切る、肉を切らして骨をたつ」の術を会得しているから結城先生も驚いた。これは油断はできないと熱心に教えたから、わずかの間に上達して近頃では師匠の結城清助も、三本勝負をやると二本は喜三次に取られるありさまで、さすがの結城先生も舌をまき

「お前さんも良い腕前になった、これ以上北辰一刀流の教えるところはない。お前さんも良く知っているであろうが、剣道の精神は人を傷つける術ではない。剣道はあくまでも正義を護る保身の術だからくれぐれも心得違いのないように」

と、さとされ北辰一刀流を免許した。

喜三次も師匠から北辰一刀流の免許を許されてすっかり喜んだ。

「先生、永い間いろいろ御指導を頂きまして有難うございました。先生の御恩は決して忘れません」

とお礼を述べて、ここに目的通り人に知られぬ間に、喜三次は剣道の達人になってしまった。

はないが、俺の剣法は天びん棒流だ」

と相変わらず人を小馬鹿にしたようにうそぶいている。

「今に泣き顔をするな」とばかり両人で立ち合ってみて驚いた。木剣のすごいこと風を切って飛んでくる。

「これは油断できないぞ」と一生懸命やってみたが三本のうち残念ながら両人とも、二本は喜三次に取られて終った。

この試合が縁となって三人は非常に仲が良くなった。ことに田巻兵市とだんだん話し合ってみると、喜三次と同じ縄張一家を退治しなくてはならないとう気持ちである。

「それでは俺とお前さんと兄弟分の約束をしようではないか」

と喜三次は年長者であるから兄分、田巻兵市は弟分として明治二十一年の七月十八日、当時十九才小須戸の街はずれの鵜出古木本間屋(当時料理店)二階で一合とっくり二本盃一個、塩一握りで兄弟分の式を上げ、世の中の毒虫縄張一家をやっつける相談ができた。

しかし此の若人達には一つの旧勢力を倒せば、又それが新勢力となることを知らない、いわば歴史が同じことをくりかえすように……

入学式案内

小須戸小　4月4日　午後1時より
矢代田小　4月5日　午前10時より
小須戸中　4月5日　午前9時より

毎月五日・午後一時より

心配ごと相談室

公民館二階にて

人間としては、腕に自信があれば自然ためしてみたいのが人情、ことに喜三次は他の人とは試合をしたことはない。結城清助から免許を許されても、自分の腕前がどの程度かわからないから、なんとか自分の腕をたしかめてみたいと考えている矢先き、横町の会津屋の前を通ったので立ち止まって、ひょいとのぞいて見ると十二・三人の若衆が集まって稽古をしている。どれを見てもたいしたことがない。一番ひやかしてやろう。

「おい、しっかりやれよ」

と喜三次はどなった。若衆たちがどなった方を見ると、弥七どんの若衆喜三次だから

「お前さんも剣道の心得があるんだろう、一本立ち合え」

と引き入れたから、喜三次は待っていましたとばかり喜んで道場の中に入り二・三人の若衆をまたたくまに打ち負かし

「俺の剣法は天びん棒流だ 相手はもうないか」

と喜三次は大声を上げたから、その威勢で一同は尻込みしてしまった。

これは一大事、道場破りだとばかり早くも若衆は会津屋道場の小天狗といわれた竹石富七、田巻兵市の両人に注進した。

二人はいそいで来て見ると道場の中央に お面、胴小手をおかした付けかたをして喜三次が威張っているから、おやおやなんだ喜三次ではないか、剣道をやるようなことは聞いていないが、これはとんだ道場破りだと思った竹石富七がていねいに

「森田さんーお前さんはたいした腕前だということだが、我々に稽古を願いたい」

と静かに申込むと喜三次は すましたもので、

「なあに、たいしたことは すましたもので、

期日　4月7日 日曜日（予定）
場所　西蒲方面

町民魚つり大会

申込み　4月5日までに　公民館へ
主催　小須戸町公民館
後援　小須戸町愛鱗会

団地化しつつ もうかる商店に努力

商工会綜合診断

今回小須戸町商工会では、中小企業診断員安田正夫先生を招き、モデル商工会綜合診断を行ない今後の小須戸町商工会の方向づけを求めたもの。診断報告は次の通り

○産業構造の現況

地方都市、特に農村を背景とする町は、その町独特の産業が隆盛であると、繁栄に結びつくものである。

本町は農業を主体とする産業構造であり、メリヤス、植木、盆栽、花卉、球根はその歴史と伝統を誇りメリヤス、食品加工は最近伸展した産業である。その構造状況を工業統計調査による事業所数従業員数等については、第一次産業から第二次産業を基盤とする国家に大きく変革しつつある時、本町もこれに対応する施策が必要だ。しかし環境及び立地を考える時は、有力工場の誘致は困難な点も見出せるので、まず地元産業に対する強力な援助施策が第一と思う。

○商圏の人口世帯の推移と現況

町の繁栄は地元産業と人口、世帯数によっても直接影響するが、繁栄すれば商圏も経済圏も広がるものであるが、やはり直接商圏の人口数が重要となる。この点本町は農村地帯を後背地とする町としては、人口減少は少ない方であり、今後の住宅地増設が強力に行なわれれば明るい期待がもてよう。環境、立地、附近市町の状況から見ても、本町は新潟、新津を対象としての住宅地との繁栄策をとるのが最も容易であると思う。また本町は綜合的な診断からすると

勤人人口	七〇%	三六%
商業人口	一〇%	一八%
工農人口	二〇%	四六%

現在の人口(参考)

勤人人口	三六%
商業人口	一八%
工農人口	四六%

くらいの時が繁栄に最適であろう。この点から見ても住宅増設策を強力に推進すべきであろう。

○街の整備状況

(センターの形式状況)

工場は団地化し商店はショッピング・センター(団地化した商店街)を形成するのは時代の傾向である。お客は一カ所で総ての用事を済ませたい心理であり、これを吸引するにはセンターを街に造ることが必要であろう。現在サービス店会、優良店会、東栄会などと山の手商店会が成立しているが、これを基盤としてセンターとなるのであろうから、おたがいに協力する点は協力し、販売面で競り合いは競り合いして発展策を樹立することがいいと思う。

○各店舗の外観と店格

店舗の構え方として標準以上と思われる店舗は三店舗にすぎない状態である。この為にセンターとしての同程度の店舗が集合体をなしている時に強い吸引力を発揮するので、凸凹であっては魅力がない。

本町の店舗として共通の欠点を挙げると

(一)座売り場の広い店舗が多い。

(二)店舗と住いの区分がされていない。

(三)店頭六尺戸の店が多い

(四)店内通路幅が狭すぎる

(五)照明器具の配置が間違っている。

都市と農村の地域差は少なくなり、お客の買物慣習も同様になりつつある時、デラックスでなくとも、もっと店舗の近代化が必要である。

雑誌商業界、商店界等の商人雑誌の購読者数は十名にすぎず、経営意慾は全般的に低いと思う。この原因は経営成績の大部分は五・十日を除く日の市であり、これに依存する為でもあろう。

○商店街の適限性

(業種構成と店舗)

街が繁栄するのは地域の人口と店舗数との比率及びその店舗の業種構成に大きく影響する。

本町の商業関係業種について見ると人口一一、三六四人二、〇九六世帯で、一店舗当り人口では三一・四人、世帯五・〇八となり、立地条件その他を考えて吸引している人口を二万人としても一店当り五五・五人、十二世帯である。この結果市に頼る店舗が相当あり、その収益の期待が強い。また本町の将来を決定づける重大な施策の一つは、世帯と人口の増加であろう

◉勧告事項

△行政と関連する事項

一、駅名変更の促進

町名と国鉄駅名が異り矢代田駅となっているのは、地名のPR及び産業の伸興によいことではない。小須戸駅と改名すべく運動を展開し、促進を図るべきである。又小須戸、矢代田のバス連絡も改善する必要があろう。

二、永久橋建設の促進と下八枚地区の架橋

建設中の永久小須戸橋も三十八年度中には完成の予定であるが、本町の地形から診断すると西に信濃川、東に山脈であり経済圏は川を渡り白根市の東一帯以外にはない。

このため下八枚地内に架橋して、白根市方面と二本の路線で続ぶ交通が必要である。

三、住宅増設の促進

農業構造の改革は必然的に農村人口を減少させるものである。しかし町の繁栄は住宅及び人口の増加と正比例する。大企業工場誘致がむずかしいと推察されるから、新潟市の郊外住宅地として対策を樹立すべきである。

四、地元産業の補助育成

大企業の誘致がむずかしくても地元独特の特殊産業があり、中小工場でも地元独自の産業には行政的施策を以てその育成を図るべきである。

◉商工会に関する事項

一、青年部婦人部の結成

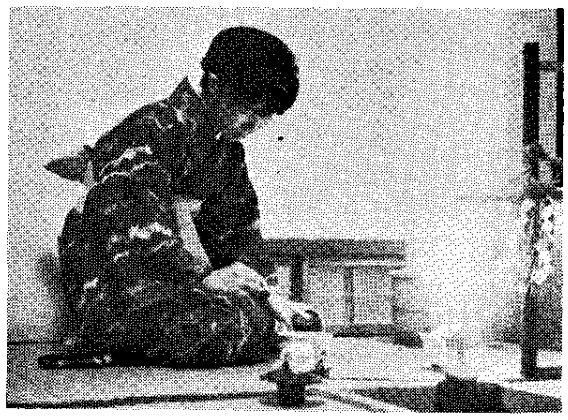
中小企業において主婦が直接経営に参加しているのは九割以上である。この主婦達に新しい時代の経営知識と技術を身につけると共に、明日の店舗経営に影響する青年が当然育成されなければならない。まずこの両会を結成すべきである。

二、会報の充実

各商店に対する店舗の問題、工場に対する原価管理、従業員賃金問題等経営者の知りたい、読みたい内容のものを充実すべきである。

三、店舗診断の続行と改装に対する援助

近くに新津、本年十月の新潟～長岡間複線電化となれば、ますます店格の低い店舗には魅力を感じない。現在でも市に頼っている状態では、市のみによる露店商となる危険が十分にある。その対策としてデラックスでなくとも、近代的店舗に改装する意慾をもたねばならない。この為にも店舗診断を引続き行ない、改装には有形無形の援助を行なうべきである。



静けさの中に春の訪れをきく

家庭の主婦と結核

長い間、国民死因のトップをしめ結核国の汚名をこうむった結核が、脳卒中に首位をゆずり今では脳卒中、癌、心臓病の順位で成人病でトップをしめております。

しかし三十代の働きざかりでは、やはり結核で死亡する者が多く、また家庭の重要な支柱である主婦に意外に患者が多いといわれ、わが国では、やはり恐ろしい病気の一つであることには変わりはありません。

家庭の主婦に患者が多いというのは、結核予防の出発点は何といっても定期的な健康診断ですが学生、生徒、会社、工場などで働く人は職場で検診を受けられる場合に比べて、家庭の主婦は集団検診の通知が来ても検診を受けるのを、おっくうがる人が多い為ではないでしょうか。

お母さんたちは子供の健康診断になると熱心でやりながらでもなおせるのですが、自分の検査になると、いっこうに受けない場合が多いようです。

検診を受けて、もし悪いと言われたら、という心配が一つ、それに年配の方はまだまだ昔ながらの「肺病」という観念があって、人に知られたら悪いといった考え方が強いようです。

家庭の重要な支柱であるからこそ早期に病気を発見し、早期治療の大切なことをよくわきまえて頂きたいと思います。

早いうちなら必ずしも入院しなくとも、家事を中に、結核に感染し発病していることが少なくありません。そういう人が感染性の患者としたら、家族全部が危険にさらされているわけです。

家庭の主婦は自分から進んで検診を受けると共に、その時はお年寄りにも、ぜひすすめて連れだって出かけるようにして頂きたいと思います。

結核予防法によって全国民は毎年一回、無料で検診を受けることになっておりますが、検診後に病気と診断された場合、低所得者で感染性の場合は、命令入所という制度で無料で治療を受けられます。

(保健婦)

当町に開かれた保護司大会

去日小須戸町公民館で新津地区保護司大会(新津、亀田、横越、小須戸)の保護司三十名以上が集まって地区における研修会が小須戸町役場助役のごあいさつで開会された。新潟保護観察官風間信康氏の指導講話により、保護観察所の活動、青少年の保護補導、保護司の使命等を織り込んだ映画に多大の感銘を与えて質疑応答に入り有意義に会を閉じた。小須戸町の保護司は次の諸氏である。

宮崎純能　間嶋金治　江川徳夫　野崎春作　丸山愛一郎　保科光枝　五十嵐義応　成田高常

(釣りの研究) 三月の釣り場

岡　謙吾

今年はまれにみる豪雪の為、釣り場と目されていた池の大半が凍り二月二十二日現在、木場の宮池、北山の池、北上の池、瓢箪池等がいずれも凍っている為、これら池での釣りは不可能であるが、本広報が皆様のお手許に届く三月中旬には、おそらく全部の池が可能と思われるので、今回は三月及び四月中旬迄の釣り場について述べてみよう。

三月中は概ね池を狙った方が無難ですが、三月下旬に入れば鮒の乗り込み期となり、潟に通じる新川(漆山)鍋木堀、電気堀(曽川、和田の間)及び国営堀(貝柄、築千坊)等でも用水の入る四月上旬迄が春の最盛期とされ当町の春期魚釣り大会もこの時期に於て開催され年間を通じ一番楽しみの多い時期とされております。また「へら鮒」もこの頃を前後してシーズンに入ります。

本稿では池のみを対象として池の名称、所在地使用する竿の長さなどについて記載します。

餌は赤虫、針は四厘、針素はライカーの一号が望ましく、錘とウキはなるべく小さいものを使用して、魚信に対する感度を高めることが重要で、地底すれすれのウキ釣りがこつとなります。

北山の池　亀田町
二間半竿　舟釣り
北上の池　新津市
三間竿　舟釣り
曽川の池　新津市曽川
二間半～三間竿
瓢箪池　黒崎村大野
二間半～三間竿
小平潟の赤池　黒崎村小平潟
二間～二間半竿　舟潟村
宮潟　黒崎村木場
二間竿

長池　黒崎村黒取
三間竿
築千坊　黒崎村黒取
二間半～三間半竿
(新川に通じる県道の横にある蓮川)
矢島　西川町曽根
二間半竿
(飛落川となる堀上げ)

この他、小須戸、子成場、戸石周辺にある信濃川提外地の池及び堀でも結構へら鮒を含めた大物も釣れますが、前記以外に良い釣り場がありましたらお知らせ下さい。

本を読みましょう

◉中学の卒業生へ!

私が中学一年の時、学校の図書室に吉川英治の「宮本武蔵」がありました。その第一巻を借りて読み始めた私は、もう夢中になって読み終るまで勉強も何もなげ出してしまったものです。学校が終るとそれを読みたいばっかりに家へとんで帰り、あすの朝おきられないことを考えて、涙をのんで床に入ったものでした。

そして私が小説らしい小説を読んだのは、これが始めてでした。

本を読むということは一体どういうことなのでしょうか。なぜみんな本を読みなさい、とすすめるのでしょうか。本を読むということは著者の文を読むということです。

「文は人なりと言います文はひとりで生まれたものではなく、誰かが書いたものです。たとえば吉川英治の宮本武蔵という時、それは吉川英治の考えた吉川英治の考えによって作りあげた宮本武蔵なのです。勿論、それは全くでたらめではありませんが、しかしもし誰か別な人が宮本武蔵を書けば又ちがった武蔵が生まれてくるはずです。だから私が宮本武蔵を読んで感激した時、それは実は吉川英治の考え方に感激していたのだ、と言えると思います。いつでも、どこでも自分のすきな時すきなかっこうで、いろんな人の考えを聞く(?)ことができる、これこそ本を読む楽しみといえると思います。

中学を卒業した皆さん今こそ本を読む時です。まず気軽るに面白そうな本からどんどん読んでみましょう。あなたの公民館は、いつでも借りに来るのをお待ちしています公民館の方に、いつでもお申こみ下さい。

3月 購入図書

◇刺繍　雄鶏社
◇愛の終りの時　石川達三
◇伊豆の旅　永田一脩
◇四国遍の旅　八木義徳
◇ふだん着の福祉国家　佐口卓
◇暮らしの中の法律　代表　有泉亨
◇家族のなかの人間　篠野富士子
◇マナーのすべて　飯田深雪
◇文明のなかの未開　井尻正二
◇家庭の保存食　代表　川上行蔵
◇人類に未来はあるか　ラッセル
◇民芸案内　伊藤安兵衛
◇顔　松本清張
◇樅ノ木は残った(上下)　山本周五郎
◇三人天一坊　井上友一郎
◇江戸百七十里　山手樹一郎
◇愛国心の目覚め　田中卓
◇咲子さんちょっと　中島さとこ
◇有害食品　天野慶之
◇落葉の柩　樹下太郎
◇五瓣の椿　山本周五郎
◇桐生一族　松本清張
◇新読書論　阪本一郎
◇ひとりぼっちの私　クレイグ
◇両手に花　鹿島孝二
◇悲喜交々　源氏鶏太
◇雨の中に消えて　石坂洋次郎
◇野良着の声　編　大牟羅良
◇徳川家康(泰平胎動の巻)　山岡荘八
◇文芸読本島崎藤村　編　瀬沼茂樹
◇愛しかた愛されかた　田中澄江
◇私は愛する　八木義徳
◇鬼ッ子　訳　コールマン　永井比奈子
◇芽ばえ　訳　ズルリーニ　若城希伊子
◇いつもアンネは　ウイルスン　訳　泉知恵子
◇連環　松本清張
◇日本再発見　編　読売新聞社
◇わたしの吉川英治　文芸春秋新社
◇顔十郎罷り通る　柴田錬三郎
◇名なし如来　寺内大吉
◇目下奮闘中　本郷貫一郎
◇隠密三国志

寒明句会

小須戸町俳句同行会

風花や親しきものゝ叩き売り　芳人
自衛隊今日も除雪の小さき村　香月
ブルトーザ豪然と過ぐ二月の野　虚秋
春雪の街角に立つポストかな　山葵
行人に詫びを言いつゝ雪おろす　甚水
風来れば光ることあり猫柳　ヒサ
垣埋めて寒明の雪衰えず　水月
黙々と雪掻く影や月明り　杏水
崖崩れ落ちて雨えたつ蕗のとう　瑰村
寒灯下素直に話す子の微笑　竜朗
雪の道忽ち拓く自衛隊　流水

短歌

照月

野も里も　うづめて高き深雪の
春を小鳥の呼ぶや村里

忘れもの

次の忘れ物が公民館に保存されてあります。お心ずきの方は至急取りに来て下さい。

一、毛糸の赤茶色のかわいいチョッキ一着(子供の注射の時に忘れたもの)

一、並常型の風呂敷一枚東京株式会社、秀工舎サン号自転車工場のマーク入り

一、いろいろな柄模様をつぎ合わせた大きな風呂敷一枚(ふとん講習の時忘れられたもの)

今回「小須戸町バドミントンクラブ」の結成により広く愛好者(特に初心者)を募ります

会員募集

申込所　小須戸公民館
〆切り　4月10日迄
詳しいことは公民館へお問い合わせ下さい